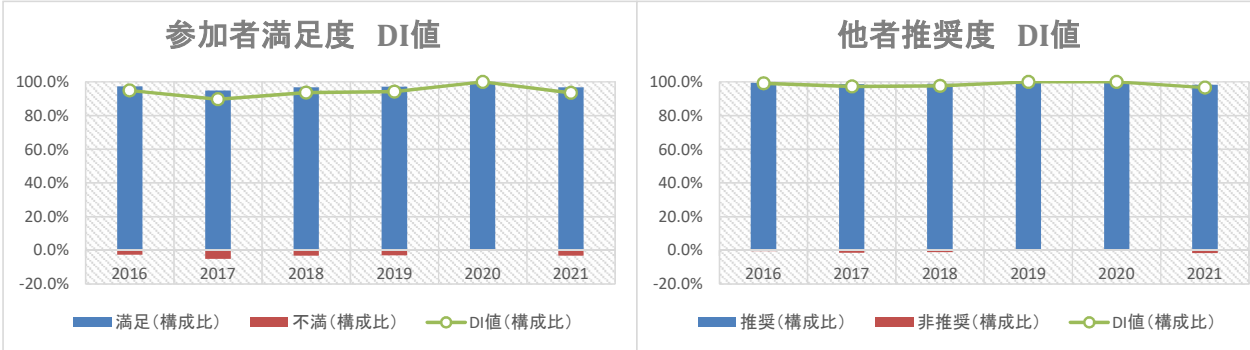


# 単位互換事業

## <事業概要>

単位互換制度とは、他大学が提供する正規科目を履修し、その単位が自大学の単位として認定される制度です。大学コンソーシアム京都では、約50の大学・短期大学が一同に協定を締結し、制度を運営しており、日本最大の規模を誇ります。学生の探究心と幅広い知識を修得する意識の涵養のため、人文・社会・自然など各分野について、興味に応じて履修できるよう広く科目を提供しています。また、京都ならではの特色ある科目として、世界遺産を学びのフィールドとした「京都世界遺産PBL科目」、京都の文化施設を学びのフィールドにした「京都ミュージアムPBL科目」を開設し、多様な大学・学部の学生たちが共に学んでいます。



## 参加者満足度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
満足(名)	654	534	334	167	59	120
不満(名)	17	29	11	5	0	4
満足(構成比)	97.5%	94.8%	96.8%	97.1%	100.0%	96.8%
不満(構成比)	-2.5%	-5.2%	-3.2%	-2.9%	0.0%	-3.2%
DI値(構成比)	94.9%	89.7%	93.6%	94.2%	100.0%	93.5%
参加者数(名)	3,120	2,400	1,842	1,271	687	870

## 他者推奨度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
推奨(名)	644	508	333	157	58	115
非推奨(名)	3	7	4	0	0	2
推奨(構成比)	99.5%	98.6%	98.8%	100.0%	100.0%	98.3%
非推奨(構成比)	-0.5%	-1.4%	-1.2%	0.0%	0.0%	-1.7%
DI値(構成比)	99.1%	97.3%	97.6%	100.0%	100.0%	96.6%
参加者数(名)	3,120	2,400	1,842	1,271	687	870

## <参加者の声>

- 自分の大学ではなかなか受けることが出来ない専門的な授業や、その大学ならではの授業を受けることができ、大変刺激になったし世界が広がったため。
- 他大学の授業を取ることが出来ることは、自分の興味分野を広げることや、対人関係を広げるうえでもとても良い機会だった。
- 単位互換先の大学によっては連絡がなかなか来ないこともある。第一回目の授業を過ぎて何も連絡が無くて不安だった。
- 受講システムがあまりに複雑な点は大きな課題だと思います。

## <参加者の声を受けて改善を図った点>

- 単位互換制度の根本的な魅力である「多種多様な数多くの科目を受講できる」点の訴求強化を図るため、2021年度よりウェブサイトに案内リーフレットを刷新し、提供科目名の掲載数を数科目から約150科目に大幅に拡大した。
- e京都ラーニングの保守更新期限到来とあわせて、新しい履修管理システムを新規構築し完全移行することを2020年度に決定した。新システムの構築にあたっては、受講者への「Eメール通知」をはじめとする情報配信機能を大幅に改善し、2021年度後半期より運用を開始する見込みである。

## ※DI (Diffusion Index)値とは

「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DIは、時系列データであれば値の増加(プラス)／減少(マイナス)、サーベイデータ(アンケートなど)であれば回答を良い／悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>

## 【総括】

単位互換制度を利用して自大学外の授業や学生または地域社会との出会いを得た学生からは、高い満足度が示された。しかしながら加盟校におけるカリキュラム充実や教育の質保証を図るための履修単位制限傾向、および2020年度からはコロナ禍の影響もあり、参加者数減少が続いている。この状況に対し、満足度の高いポイントに焦点をあわせた広報内容見直しや、最新デバイスの利用を念頭に置いたユーザビリティ向上等をはかり、参加者数回復と満足度維持に取り組むとともに、「京都世界遺産／京都ミュージアムPBL科目」等、大学コンソーシアム京都ならではの特色ある科目のさらなる開発・発展に注力していく。